

ものづくり人材育成やまがた便り

『すなおな心と行動』で 職場をもっと明るく楽しく！



ピーキューブ(株)
代表取締役社長 成沢 俊子

山形県は、私の人生を変えた、忘れ得ぬ場所

30年も前のこと、南陽市のK社を見せていただく機会を得ました。そのころ、私たちは、「トヨタ生産方式で会社を変えたいけれど、なかなかできない。なぜだろう？」と深く悩んでいました。それが、K社では、すっかりできているのです。できているどころか、改善を通して、働く人たちがハッピーになっている現実を目の当たりにして、「できない理由を探すのはもうやめよう！」と誓うことができました。

その数年後、今度は鶴岡市で、電子部品のすばらしい会社を見せていただきました。今にして思えば、当時の私たちは、多能工化の考え方も、表面的にしか理解していなかったと感じます。その工場では、ある部品の加工から組立・検査まで、1本の「流れ化ライン」にして、1個流しでつくっていました。お客様の要求数量が少ないときは1人で、増えてきたら2人で、もっと増えたら3人で、減ってくれば再び1人でという具合に、お客様が買ってくださるスピードに即座に合わせて、1個ずつ、流れでつくっていたのです。他にも、工場のすべての場所が、「流れ、流れ、流れ！」になっていました。

驚きのあまり、「いったい、どうしたら、皆さんのようになれるか？」とたずねた私に、案内してくださった女性社員の方は、こうおっしゃっ

たのです。

「その気持ちを大切に持ち続けて、改善を続けていけば、必ずいつか、なれますよ」

爾来27年、いまも、このときのことをよく思い出します。「その気持ち」を大切にして、自分自身がよりよい改善ができるようになったか、自信はないのですが、さまざまな企業をお訪ねするうちに、「気持ち」がどれだけ大切か、だんだんと分かってきたように思います。

目的は、人がハッピーになること

流れをつくり、リードタイムを短くすれば、人はハッピーになれるでしょうか？

確かに、停滞だらけの職場で、モノを探したり、積み替えたりといったムダな作業をしなくて済むようになれば、楽になるはずです。一方で、リードタイムは短くなったけれど、売上が減って、結局は工場閉鎖に追い込まれてしまったというケースを、たくさん見てきました。

たしかに、停滞はないほうがよく、リードタイムは短いほうがいいに決まっています。しかし、会社として、「リードタイムを短縮して、その先、どういう未来が開けるか？」という筋立てがなければ、社員はハッピーにはなりません。

問題の立て方が、どこか間違っているのかもし

れないと考えるようになりました。

いくらお客様のためだからと言っても、自分たちがハッピーになれないことを喜んでやれる人が、そんなにたくさんいるものでしょうか。

問題の立て方、解決の仕方を、考え直すとき

近年は「問題解決」に強い関心が集まるようになって、うれしい限りです。書籍もたくさん出ています。皆さんが「いままでにやってきた問題解決のやり方のなかに、どこか、よくないところがあったかもしれない」と感じているから、話題になっているのだと思います。

いったい何が「よくなかった」のでしょうか？「すべてが間違っていたのだ」とは言いませんが、しばしば見かけるのは、上の人が「こうだ！」と言ったものに従いすぎて、事実が見えなくなってしまうたり、最初から「これをやる！」と決めてしまう「対策ありき」の進め方です。

多くの人が「問題解決の進め方」を勉強しているというのに、どうして、そうなるのか。

これには、私たちの脳の癖が関係しているそうです。脳はもともと大量にエネルギーを消費する器官なので、常に、できるだけエネルギーを節約しようとします。したがって、自然の摂理に従って、「すでに分かっていることは、できるだけ考えないようにする」ということなのですね。

これが、「この問題は、こうだ」という決めつけや「対策ありき」のストーリーを生み出してしまふ原因になっているようです。

自然の摂理に逆らって、問題をイチからじっくり考えていこうというのですから、「よく考えなさい」と言うだけでは、脳のこの癖は直りません。

当人の研鑽は不可欠ですが、じつは、周りの人たち、特に、上司や先輩の言動にこそ、本当の問題を解決して、人がハッピーになれるかどうかの

カギがあります。それが、「すなおな心と行動」です。

毎時、毎日、毎月、すなおに考え、行動する

「すなお」には「従順な」という意味もありますが、ここで言うのは、「元のままの、まっすぐな心や態度」という意味です。実はこれ、英語にできない、極めて日本的な言葉なのです。ご存知でしたか。「人は本来、すなおな存在である」という、いわば性善説の考え方がここにはあります。それが、さまざまな社会的制約にとらわれて、すなおな、ありのままの自分が出せずにいる。すなおに事実を見て、すなおに考えれば、多くの問題は解決できるはずなのです。

私は、上司や先輩が、まず、このような人間観に立って、毎日行動してこそ、組織で働く人々の力を解き放ち、能力を開花させることができると信じています。

上の人が「これだ、これに決まっている！」とか「〇〇〇をやるのがベストだ！」と強く言えば言うほど、下の者はその範囲でしか考えられなくなります。

何か問題が起きた時、「対策はどうした？」「早く対策を持って来い！」とおおればおおるほど、下の者は、とにかく早く何か対策らしいものを出さないと…と気持ちが急くでしょう。これが「対策ありき」を引き起こすのです。

上の人たちがここを変えるだけでも、人々は「ハッピーになる」という本来の目的を自ずと思出し、「〇〇〇をやる」ことが目的になってしまう不幸を避けることができます。

コストはゼロ。ぜひお試しあれ！

「やまがたのものづくり企業の魅力」

どんな環境にも対応できる「ものづくり」



～株式会社鈴木製作所～

代表取締役社長 鈴木 重幸

株式会社鈴木製作所は、山形の地で、町の鍛冶屋として創業して約90年間、その時代・時代にあっただけの「ものづくり」を行ってきました。家庭用ミシン業界で、世界で初めて生地を切った後のほつれを止めるミシンを開発し世界になかった市場を創設しました。以来、この50年「世界で初めて」の製品を開発し、新たな市場を築き上げてきました。

しかしながら、現在はAI・IoT技術・ロボット・ビッグデータなどの台頭により、今まで人類が経験したことのない産業革命がとどまることなく日々進行しています。

『人々の考え方が変わり・欲求が変わり・生き方が変わる』その事を敏感にとらえる事で、今までにない市場を作り出す事が出来ます。それには、今までの経験や知識にとられない柔軟な発想とそれを「かたち」にする行動力が必要です。山形の小さな会社ですが、『自分の力を最大限に発揮できる・未来をつくる』そんな会社が鈴木製作所です。

「メイド・イン・やまがた」世界に“夢と感動”を

やまがたは、四季がはっきりしており、夏は暑さが厳しく、冬は寒さが厳しい。その環境から、粘り強く、愚直に物事に取り組むという遺伝子が脈々と受け継がれ、その遺伝子が「やまがたのものづくり」の土台となっています。この土台こそが「新」を生み出すのに重要です。当社は家庭用ミシンのリーディングカンパニーとして、やまがたから世界に変化を起こしていきます。

一人一人の成長こそが未来をつくる

「ものづくり」は「ひとづくり」と言われています。世界の政治、経済、人としての生き方が大きな変化の波にさらされ、新たな時代を模索している中で、世界中の企業、大企業・中小企業に関係なく「かわる」という事が求められています。「かえる」のは、誰かがやってくれるのではなく、私達一人一人の行動が大きな流れになり、「かわる」ということに結びつきます。

一人一人が、個性を伸ばし資質を高めることにより仕事を通じての生きがいを感じ、

さらに、人としての人生の喜びを得る会社そんな会社を目指しています。

本当の学びと成長は仕事の中にある

社員の成長を実現・支援する「Suzuki Machineryキャリアアップ応援制度」は、業務を通じて新たなスキルを身に付け、成長していくための支援制度です。その支援制度は3つです。①研修制度は、入社時研修、外部講師による改善活動研修・方針管理研修（各月2回）、技能検定受験指導があります。②社員のやる気を支援する制度は、技能検定合格者への技能手当支給（給与）、改善提案表彰制度（社内改善活動）などがあります。③ワークライフバランスを支援する制度は、産休制度の完全取得（女性が働きやすい環境）、誕生会を開催し誕生月の社員には「バースディケーキ」を贈呈、また、社内イベントは花見・芋煮会・忘年会・新年会を開催し、社員相互のコミュニケーションを深めています。

2020年度採用状況

2020年 大卒 1人 短大卒 1人

= 若手社員のご紹介 =

未来は自分たちの手で！

長井市出身入社2年の酒井志帆さん



Q 入社のも機は

地元での就職を考えており、ものづくりに興味がありました。「山形から世界へ」という言葉に惹かれて入社しました。

Q これからの目標は

今教えていただいている知財の管理を正確にしたい、また、改善しながら取り組んでいきたいです。社内の安全衛生に関わる業務も取り組みたいと考えています。

Q 担当業務の内容と感じていることは

総務部に所属しています。主な業務は、社内文書の作成、備品の管理など社内全般に関わる内容です。業務内容が広く、いろんなことに対応できなければならないと思います。

Q 趣味はありますか

とにかく美味しいものを食べるのが大好きです。



Q 現在の仕事はどうですか

まだまだ勉強しなければならないことばかりです。教えていただいたことを確実に身につけていきたいです。

Q 最後に、大切にしている心構えは

実際に物を作るなど生産に携わる現場の方々、常日頃からお世話になっている総務の方々など、周囲への感謝を忘れずに仕事に取り組んでいきます。

～ 酒井さんの一日のスケジュール ～

7:45	出社	出社後は最初に事務所の机など拭き掃除をします。	
↓			
8:25	始業	朝礼後業務を開始します。 社内文書の整理や備品の確認など、社内全般に関わる業務で緊張します。	
↓			
↓			
↓			
12:00	昼休憩	お昼は食堂で同僚と一緒に弁当を食べます。 ほっと一息つける楽しい時間です。	
↓			
12:45	業務再開	ミシンに関わる特許関係の事務処理をしたり、毎日、社員の出退勤のチェックをします。 特に、特許関係は専門の技術的な内容なので、間違わないように気をつけます。	
↓			
↓			
↓			
↓			
17:10	業務終了・退社	業務終了後清掃をします。 翌日のスケジュールを確認して、退社します。	
↓			
18:00	帰宅	退勤後は翌日の弁当の準備をします。 今は資格試験が迫っているので、合格を目指して勉強します。	